

自転車利用実態定点調査報告

平成27年7月

(一財)日本自転車普及協会

調査目的 自転車は車道左側走行が原則であるが、実際の自転車の走行状況の実態を調査し、その状況の問題点を探り一般に公開することで、望ましい走行空間の参考資料としていただくことを目的に行う。

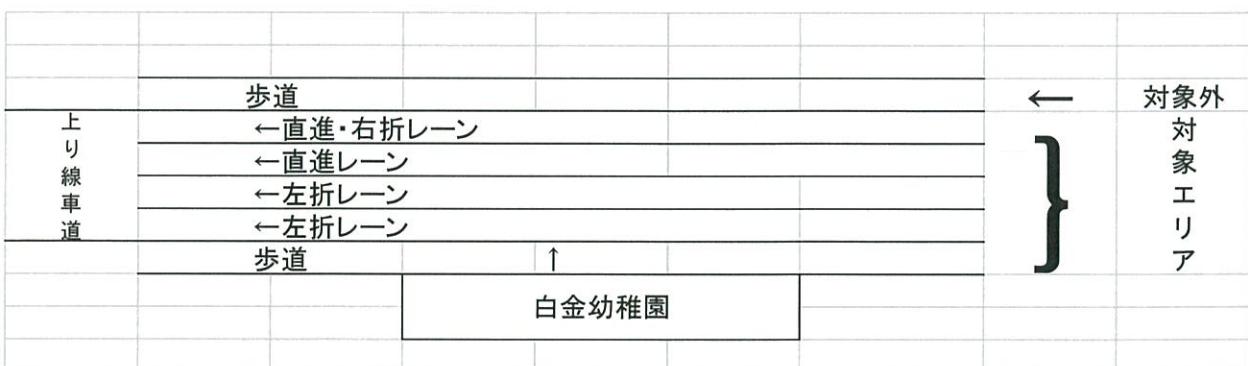
調査日時 平成27年6月23日

[午前]9:00~10:00

調査場所 • 白金幼稚園前（庭園美術館西交差点（首都高速目黒線直下）から70m程の上り坂）

概要 • 調査対象（車道線：目黒通り上り4車線及び歩道幅員3.1m
[一部歩道橋橋脚部分1.5mあり]）

調査対象外（反対側上り歩道）



調査項目 走行空間調査（車道、歩道）と危険走行調査

自転車利用実態定点調査票						
被写体番号	走行空間	車道	歩道	危険運転行為	その他	備考
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						

調査日時： 年 月 日（ ） 時 間（ ）
 天候： 晴
 調査時間： ~

<調査票>

【コメント】

- ◎走行空間においては、車道左側走行率は、21%であり、また、車道中央走行率も同様に、21%、依然、歩道を通行する自転車が多く、全体の約6割を占めている。
- ◎危険運転行為(違反行為を含む)は、肩に荷物(23件)・片手運転・立ち漕ぎ(各3件)・ハンドルに荷物・過積載(各2件)・子乗せ後部席に荷物(*1)(1件)の順となっている。

*1 子乗せ後部席に荷物を掛ける事は、もし、気が付かない間に落下して、歩行者や自転車等に迷惑(通行障害・事故起因等)を及ぼしかねないので、基本、止めた方が望ましい。

【総合】

今回は、前回に調査したデータ及び下り地点(自転車総合ビル前の6/26午前)とのデータについて以下の項目について比較してみた。

・車道左側走行率

今回(21%)に対し、前回(20%)と、同様である。
 上り地点の白金(以下、上り地点と呼称・21%)に対し、下り地点の自転車総合ビル前(以下、下り地点と呼称・9%)の、2倍強である。

・子乗せ自転車

今回(17%)に対し、前回(8%)の 2 倍強の水準
上り地点(17%)に対し、下り地点(18%)と同程度の水準

・電動自転車

今回(27%)に対し、前回(29%)と同程度の水準
上り地点(27%)に対し、下り地点(29%)と同程度の水準

・危険運転行為 上り地点の [肩に荷物・片手運転・立ち漕ぎ] に対し、
(違反行為を含む) 下り地点では [肩に荷物・立ち漕ぎ・片手運転] と、
同様の内容となっている。

なお、中央走行者については、依然として電動自転車を使用していない。

さらに、車道中央走行が多かった理由も、前回以前から同様に、上り車線先の庭園美術館西交差点において、歩行者横断帯中央にて左折道路と直進道路が分断されており、直進する利用者は、同交差点のかなり手前から 道路中央を走行していたが、4 車線での中間(両隣が 2 車線)走行のため車両に挟まれてながらと、かなり危険な走行を強いられている感が窺えた。